

周防大島町立大島病院 公的医療機関等2025プラン (公立病院)

平成30年10月 策定
令和2年3月 改訂予定

【周防大島町立大島病院の基本情報】

医療機関名：周防大島町立大島病院

開設主体：周防大島町

所在地：山口県大島郡周防大島町大字小松1415番地1

許可病床数：99床

（病床の種別）

- ・急性期一般病棟入院料6：39床
- ・療養病棟入院料1：39床
- ・地域包括ケア入院医療管理料1：21床

稼働病床数：同上

（病床の種別）

（病床機能別）

（病床機能別）

急性期、回復期、慢性期

診療科目：内科・外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・眼科・耳鼻咽喉科
・発達小児科・リハビリテーション科

職員数：

- ・医師：7名
- ・看護職員：58名
- ・医療技術員：27名
- ・事務職員：8名
- ・その他（看護補助者ほか）：17名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

○地勢等

本圏域は、柳井市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町の1市4町から構成されており、9つの有人離島を有し、面積は、県全体の6.5%を占めている。地理的には県東南部に位置する瀬戸内海沿岸地域に位置し、豊かな自然及び温暖な気候に恵まれているが、郡部は過疎化が進み、離島や半島では交通アクセスに難がある。

○人口

人口は、平成22年（2010年）の86,623人が、平成37年（2025年）には70,455人（平成22年比-18.7%）、平成52年（2040年）には55,493人（同-35.9%）に減少すると予測される。一方、75歳以上人口は、平成22年（2010年）の17,673人が、平成37年（2025年）には19,534人（同+10.5%）に増加した後、平成52年（2040年）には15,914人（同-10.0%）に減少すると予測される。

○医療機関・病床の状況

本圏域には、9の病院と72の一般診療所、38の歯科診療所、44の薬局がある。また、平成27年（2015年）病床機能報告結果によると、急性期415床、回復期32床、慢性期1,566床となっており、高度急性期の病床がなく、慢性期の病床が極端に多い状況にある。本圏域には、高度急性期・急性期医療を担うDPC病院が1病院あるが、半島や島しょ部においては病院までの移動に60分以上を要する地域がある。

② 構想区域の課題

- ・ 郡部は過疎化が進み、離島や半島では交通アクセスに難がある。
- ・ 人口減少に伴い、地域の医療需要も減少傾向にある。
- ・ 慢性期病床が過剰である。
- ・ 医師の高齢化

③ 自施設の現状

理念

・私たちは、安心・安全で信頼される医療を提供し、地域住民の健康を守り、暮らしを支えます。

基本方針

- ・常に向上心を持って教育・研修に励みます。
- ・やさしさと思いやりの医療・看護を実践します。
- ・保健・福祉と連携して地域医療に貢献します

届出入院基本料

- ・急性期一般病棟入院料6：39床
- ・療養病棟入院料1：39床
- ・地域包括ケア入院医療管理料1：21床

④ 自施設の課題

周防大島町の唯一の急性期病院として、人口減少、高齢化等の外部環境の変化に柔軟に対応していくために急性期から慢性期にかけて病床数をバランスよく配置するとともに、医療・介護提供体制の切れ目ない連携の維持・発展に寄与する必要がある。現在は、周防大島町の地域包括ケアシステム深化・推進のために、開業医との連携だけでなく訪問診療にも力を入れていきたいが、医師の高齢化が深刻で救急医療の体制維持に影響をきたす恐れがある。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

・地域包括ケアシステムの推進

島内の唯一の急性期病院として、在宅医、訪問看護ステーション等との連携を強化し、患者の急性増悪時及び退院時のサポートを充実させるなど、地域包括ケアシステムに寄与する。また、高齢化により、増加が見込まれる認知症や身体合併症を有する精神疾患を持つ患者への対応を強化していくために訪問診療の件数増加に努める。

・近隣病院・診療所等との連携強化

周防大島町の医療機関として、地域包括ケアシステムに寄与するため、島外の高度急性期病院並びに島内における開業医との連携を積極的に行う。特に、島内における開業医との連携については、入院患者の受け入れや退院後の紹介を行っていき、連携強化に努めていく。

また、病院事業局内における連携については、経営健全化や人口数に則したダウンサイジングで再編計画を推し進め、機能分化を図りながら病院事業局内との連携強化にも努めていく。

② 今後持つべき病床機能

病床機能について、当該地域ではケアミックス型の体制が最もバランスが良く、回復期、慢性期の体制を見直すことは考えていない。

③ その他見直すべき点

・材料費の適正化

医薬品及び診療材料については、効率的な購買体制になっていない状況であり、各事業所が協力・連携し、また企業局が主体となって購買環境の改善を図り、医薬分業について検討していく。

・タスクシェアリング・タスクシフティングの推進

病院事業局内の再編計画に伴い、人材不足の解消としてタスクシェアリングやタスクシフティングを検討していく。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成30年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期		→	
急性期			
回復期			60
慢性期	99		39
休棟等			
(合計)	99		99
介護保険施設へ移行予定	—		
うち、介護医療院	—		

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度 (実績)			2 年度 間 程 で 業 務 中 心 的 な 検 討 を 促 進
2018年度			
2019～2020 年度	再編計画の策定	2019年度再編計画の策定	第7期 介護保険 事業計画 第7次医療計画
2021～2023 年度			第8期 介護保険 事業計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床稼働率： 81.4% ・ 医師数： 8名 <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人件費率： 68.4% ・ 委託費率： 6.7% ・ 診療材料費率： 6.1% ・ 薬品費率： 21.5%

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)

--